

令和5年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 三輪 颯 (基盤整備班主幹 戸田久雄)	内線	4003 (4041)
------	----------------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
ほ場整備	たつの ^{とうぶ} 東部地区 農地整備事業	たつの市神岡町沢田	11.0億円	—	令和6 (2024)年度	令和14 (2032)年度

事業目的	事業内容
本地区は、たつの市の中心部の北東約2kmに位置する中間農業地域で、集落営農組織による水稲、野菜栽培が行われてきたが、農家の減少及び高齢化に対応するため、機械の大型化や用水路の管路化等による効率化を図り、更なる農地集積を進めるとともに、高収益作物の生産拡大を図り、持続可能な地域農業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理 29.9ha 用排水施設 4.3ha 事業主体 兵庫県 [負担割合 国：50.0%、県：27.5% 市：10.0%、地元：12.5%]

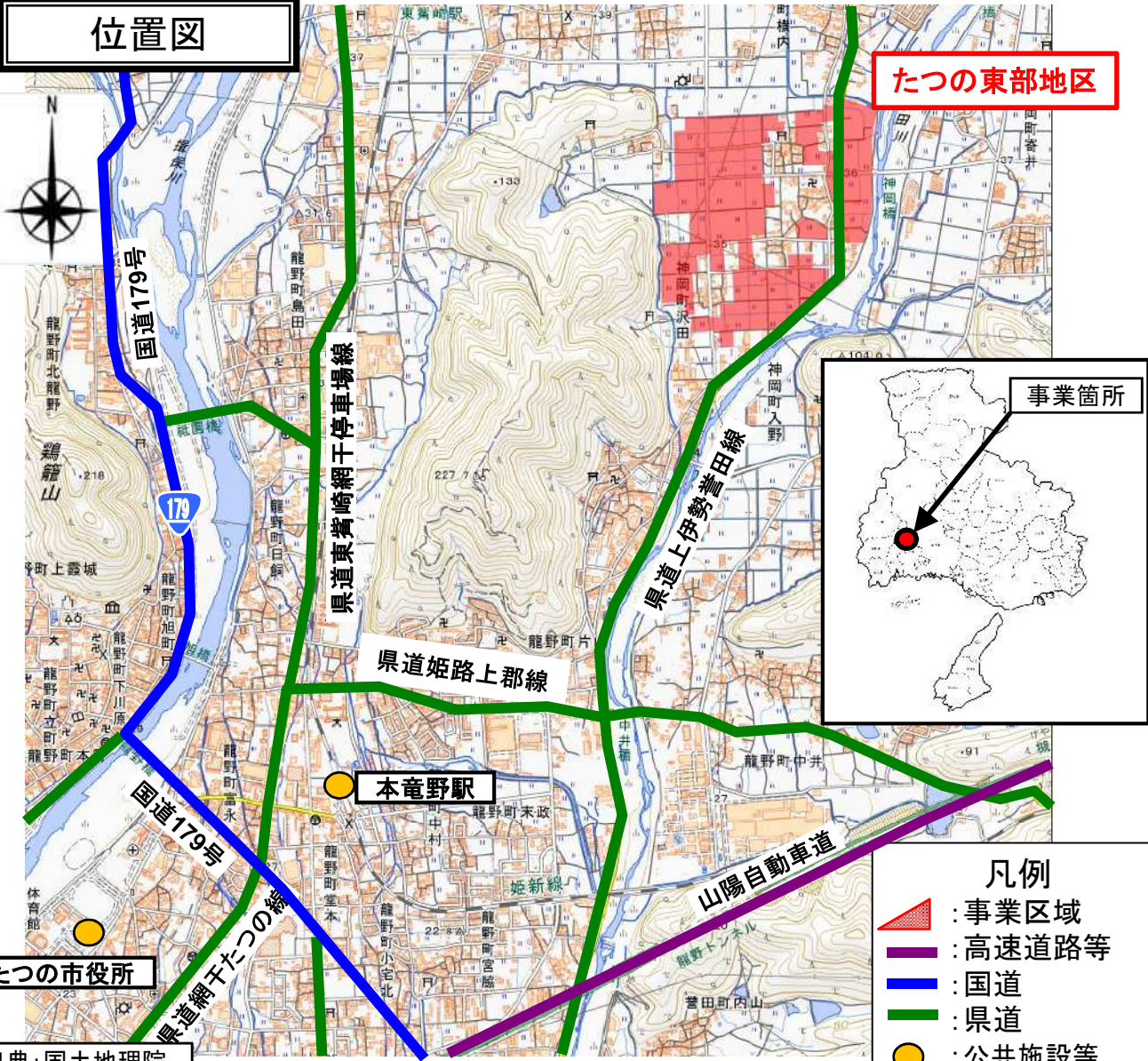
評価視点	評価結果の説明												
(1) 必要性	<p>本地区は、過去に耕地整理が行われ標準10a区画の整形田であるが、用排兼用水路は老朽化し、用水は表流水の乏しい河川に頼り慢性的な用水不足を抱え、農道は狭小のため効率的な機械化営農が行えない状況にある。</p> <p>このため、効率的な営農を行うとともに高収益作物を作付けし、一層の農業経営の安定と拡大を図るため、農業用水の安定供給とほ場の大区画化及び管路化・自動給水栓導入等による農作業の効率化が必須となっている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場条件</td> <td>区画：平均10a（水田） 用排水路：現場打水路 道路：幅員2～3m</td> <td>区画：標準100a（輪換田） 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員3～5m</td> </tr> <tr> <td>農業経営体</td> <td>個人：33戸（5.2ha） [担い手] 集積率85.5% 株式会社：1法人（30.6ha）</td> <td>個人：16戸（1.7ha） [担い手] 集積率95.0% 株式会社：1法人（32.5ha）</td> </tr> <tr> <td>農業生産 (主なもの)</td> <td>水稲：16.0ha 大豆(種子)：6.1ha 小豆：0.2ha バジル：0.2ha 玉葱：0.4ha 小麦(種子)：10.0ha</td> <td>水稲：15.0ha 大豆(種子)：6.2ha 小豆：7.6ha バジル：0.5ha 玉葱：5.0ha 小麦(種子他)：12.0ha</td> </tr> </tbody> </table>		現状	計画	ほ場条件	区画：平均10a（水田） 用排水路：現場打水路 道路：幅員2～3m	区画：標準100a（輪換田） 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員3～5m	農業経営体	個人：33戸（5.2ha） [担い手] 集積率85.5% 株式会社：1法人（30.6ha）	個人：16戸（1.7ha） [担い手] 集積率95.0% 株式会社：1法人（32.5ha）	農業生産 (主なもの)	水稲：16.0ha 大豆(種子)：6.1ha 小豆：0.2ha バジル：0.2ha 玉葱：0.4ha 小麦(種子)：10.0ha	水稲：15.0ha 大豆(種子)：6.2ha 小豆：7.6ha バジル：0.5ha 玉葱：5.0ha 小麦(種子他)：12.0ha
	現状	計画											
ほ場条件	区画：平均10a（水田） 用排水路：現場打水路 道路：幅員2～3m	区画：標準100a（輪換田） 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員3～5m											
農業経営体	個人：33戸（5.2ha） [担い手] 集積率85.5% 株式会社：1法人（30.6ha）	個人：16戸（1.7ha） [担い手] 集積率95.0% 株式会社：1法人（32.5ha）											
農業生産 (主なもの)	水稲：16.0ha 大豆(種子)：6.1ha 小豆：0.2ha バジル：0.2ha 玉葱：0.4ha 小麦(種子)：10.0ha	水稲：15.0ha 大豆(種子)：6.2ha 小豆：7.6ha バジル：0.5ha 玉葱：5.0ha 小麦(種子他)：12.0ha											

(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>当地区では、集落営農から発展した株式会社が組織され、水稲のほか大豆・小麦の種子生産を大規模に受託するなど営農意欲が旺盛で高品質な農業生産が営まれている。引き続き安定して種子を供給するとともに小豆、バジル、玉葱の生産を拡大し、農業経営の安定と向上を図るため、ほ場整備の実施が有効である。</p> <p>費用便益比 B/C=1.5 (1,544百万円/1,062百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な効果項目</th> <th>年効果額</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作物生産効果 (農作物生産量の増減)</td> <td>14,182千円</td> <td>水稲：82.1t⇒78.5t(4.4%減) 小豆：0.2t⇒7.6t(3700%増) 玉葱：16.0t⇒200t(1150%増)</td> </tr> <tr> <td>営農経費節減効果 (営農経費の節減)</td> <td>74,143千円</td> <td>10a当りの作業時間 水稲：85.2hr⇒11.8hr(86.3%減) 玉葱：156.0⇒44.6hr(71.4%減)</td> </tr> <tr> <td>維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)</td> <td>△2,699千円</td> <td>揚水ポンプの設置(2箇所)に伴う 維持管理費の増額</td> </tr> </tbody> </table> <p>合意形成は出来ており(事前同意率100%)、担い手を中心とした地域計画を策定中</p>	主な効果項目	年効果額	説明	作物生産効果 (農作物生産量の増減)	14,182千円	水稲：82.1t⇒78.5t(4.4%減) 小豆：0.2t⇒7.6t(3700%増) 玉葱：16.0t⇒200t(1150%増)	営農経費節減効果 (営農経費の節減)	74,143千円	10a当りの作業時間 水稲：85.2hr⇒11.8hr(86.3%減) 玉葱：156.0⇒44.6hr(71.4%減)	維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)	△2,699千円	揚水ポンプの設置(2箇所)に伴う 維持管理費の増額
主な効果項目	年効果額	説明											
作物生産効果 (農作物生産量の増減)	14,182千円	水稲：82.1t⇒78.5t(4.4%減) 小豆：0.2t⇒7.6t(3700%増) 玉葱：16.0t⇒200t(1150%増)											
営農経費節減効果 (営農経費の節減)	74,143千円	10a当りの作業時間 水稲：85.2hr⇒11.8hr(86.3%減) 玉葱：156.0⇒44.6hr(71.4%減)											
維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)	△2,699千円	揚水ポンプの設置(2箇所)に伴う 維持管理費の増額											

(3)環境適合性	<p>専門家による調査の結果、シマヒレヨシノボリ、トノサマガエル、ニホンイシガメの希少生物が発見された。新たに設置する排水路において環境配慮柵や深みを設けるとともに、地区内での生育環境確保が困難な種については、地区外の同じ生育環境へ移動させることとする。</p>
(4)優先性	<p>区画が狭小で営農効率が悪く、高齢化が進行していることから、地域において基盤整備を実施し農業のICT化を進めることとしたため、早急に取り組んでいく。</p>
【事後評価】 <input type="checkbox"/> 対象・ <input type="checkbox"/> 対象外	<p>事業完了後に、担い手への農地集積及び作物作付の状況を確認し、事業効果を検証することにより、事後評価を行う。</p>

とうぶ
ほ場整備事業 たつの東部地区

位置図



たつの東部地区

事業箇所

目的

本地区はたつの市の中心部から北東約2kmに位置する中間農業地域であり、集落営農組織による水稲、野菜栽培が行われてきたが、農家の減少及び高齢化に対応するため、機械の大型化や用水路の管路化等による効率化を図り、更なる農地集積を進めるとともに、高収益作物の生産拡大を図り、持続可能な地域農業を推進する。

事業概要

事業概要 : 区画整理 29.9ha
 用排水施設 4.3ha(関係戸数99戸)
 所在地: たつの市神岡町沢田
 事業期間 : R6~R14
 総事業費 : 11億円
 事業主体 : 県
 費用便益比: 1.5

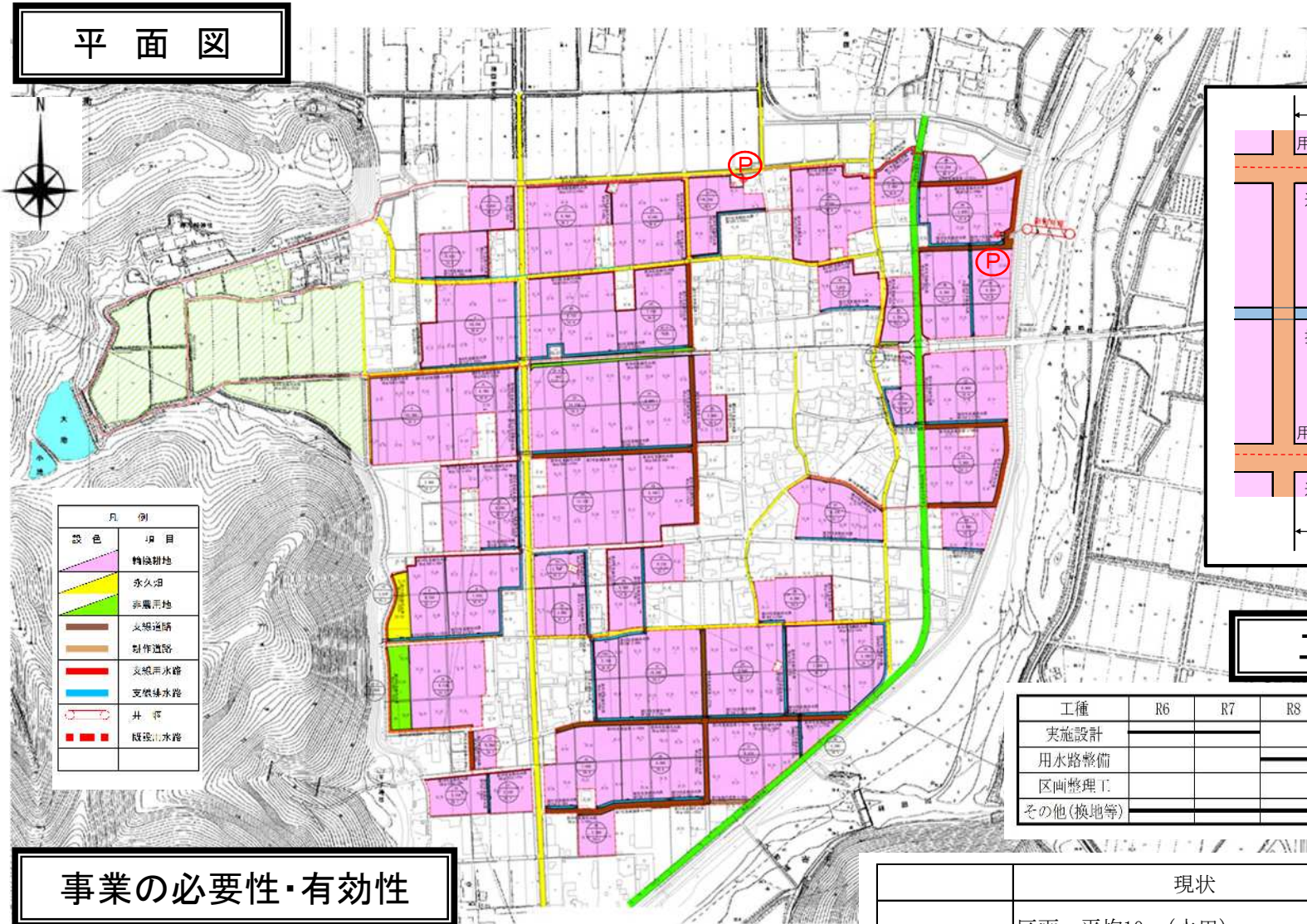
工程表

工程	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
実施設計									
用水路整備									
区画整理									
その他(橋梁等)									

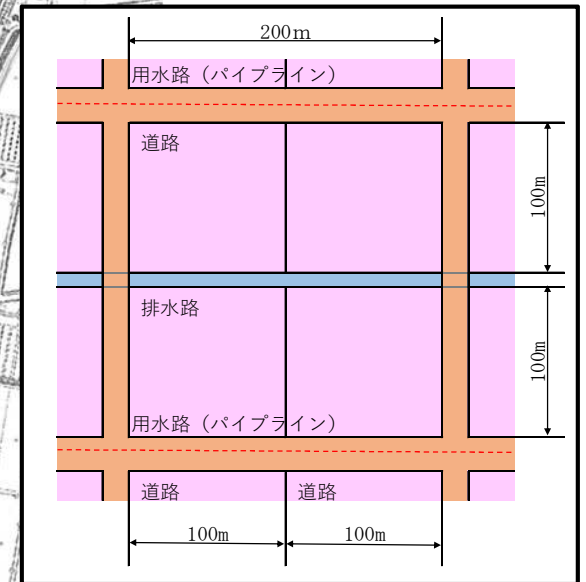
- 凡例
- ▲ : 事業区域
 - : 高速道路等
 - : 国道
 - : 県道
 - : 公共施設等

たつの市役所
 出典: 国土地理院

平面図



標準区画割図



工程表

工種	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
実施設計									
用水路整備									
区画整理工									
その他(換地等)									

事業の必要性・有効性

本地区では、用水を表流水の乏しい河川に頼っており慢性的な用水不足を抱え、農地は未整備で小区画のため効率的な営農が行えない状況にある。

一方、集落営農から発展した株式会社が組織され、水稻のほか大豆・小麦の種子生産を大規模に受託するなど営農意欲が旺盛で高品質な農業生産が営まれている。

このため、引き続き安定して種子を供給するとともに小豆、バジル、玉葱の生産を拡大し、農業経営の安定と向上を図るため、ほ場整備の実施が有効である。

	現状	計画
ほ場条件	区画：平均10a（水田） 用排水路：現場打水路 道路：幅員2～3m	区画：標準100a（輪換田） 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員3～5m
農業経営体	個人：33戸（5.2ha） [担い手] 集積率85.5% 株式会社：1法人（30.6ha）	個人：16戸（1.7ha） [担い手] 集積率95.0% 株式会社：1法人（32.5ha）
農業生産（主なもの）	水稻：16.0ha 大豆（種子）：6.1ha 小豆：0.2ha バジル：0.2ha 玉葱：0.4ha 小麦（種子）：10.0ha	水稻：15.0ha 大豆（種子）：6.2ha 小豆：7.6ha バジル：0.5ha 玉葱：5.0ha 小麦（種子他）：12.0ha

(1)費用対効果

①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
食料の安定供給の確保に関する効果	①作物の生産増に関する効果 ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
	②営農経費の節減に関する効果 区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	③維持管理費の節減に関する効果 ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果
農業の持続的発展に関する効果	④耕作放棄の防止に関する効果 ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
農村の振興に関する効果	⑤非農用地等の創設に関する効果 区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果
	⑥地籍確定効果 区画整理の実施により区画の整形や確定測量が行われることで地籍が明確になる効果
その他の効果	⑦国産農産物の安定供給に関する効果 国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

②費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)		代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
					(百万円)	(百万円)	(百万円)	
ほ場整備	農地整備事業	①作物生産効果	289	農産物生産量の増加 たまねぎ0.2t→34t	1,062	679	383	1.5
		②営農経費削減効果	1,216	労働時間の短縮 たまねぎ156→45hr/10a				
		③維持管費節減効果	△58	施設整備による管理費増 揚水機場(2箇所)の新設				
		④耕作放棄防止効果	1	将来発生が予測される耕作放棄を防止				
		⑤非農用地等創設効果	3	市道用地の創出				
		⑥地籍確定効果	13	換地により地籍が確定する効果				
		⑦国産農産物安定供給効果	80	国産農産物の安定供給増				
		計	1,544					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
多面的機能の発揮に関する効果	①地下水のかん養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水のかん養を促進する効果	○	区画整理
	②農地や農村における災害の抑制 用水路と排水路の分離、法勾配の改善（緩傾斜化）、畦畔の強化、ほ場の湛水量の増などが図られ、洪水の防止・軽減により農地・農業用施設、農村の災害を抑制する効果	○	区画整理 用排水路整備
農業の持続的発展に関する効果	③農村の活性化 農作業の省力化や生産拡大により、農業所得の向上や若い担い手の定着が促進され、農村が活性化する効果	○	区画整理
農村の振興に関する効果	④地域交通の利便性向上 農道の整備により農業交通が安全に通行でき、また生活道路を兼ねる農道については、地域の利便性・安全性が向上する効果	○	農道整備

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域で話し合いを重ね、地域の農地を守るため、また、生活環境を改善するために不可欠な事業であることから、早期の事業実施について市へ強い要望が出されている。（事前同意率100%） ▶ 農道の拡幅、用水路の管路化及び自動給水システムの導入、排水路の完備等による農作業の効率化及び省力化に大きく期待している。 ▶ 農作業を効率化し、農業法人に農地を集積し、地区全体で高収益作物の生産拡大を進めたい。
-------	---